



「大学研修」を開催しました

12月17日(月)～19日(水)に、理数科1年生を対象として、自然科学分野の研究活動についての知識や技能を身に付けるとともに、研究活動についての意欲を高めることを目的として、佐賀大学で「大学研修」を実施しました。理工学部と農学部の先生方に実験・演習の指導をいただきました。

理工学部機能物質化学科 梅木辰也先生「イオン液体を知ろう」



- 「実験で、塩化コリンを量り取るのには苦戦しました。しかし、この量り取る作業が化学の実験における基本中の基本だとおっしゃっていたので、もっと慣れていかなくてはと思いました。」
- 「初めて聞くような用語や試薬が多く、難しいと感じる部分があったが、これからの化学の授業で基本知識をしっかりと理解し、どうしてその結果になるのか自分の言葉で説明できるようになりたいと思った。」

理工学部機械システム工学科 武富紳也先生「機械材料の世界」



- 「機械の原理や定義を知り、携帯電話、スマートフォン、パソコンが機械でないということに驚いた。」
- 「マシュマロチャレンジが、機械材料などに関係し、構造物についての知識を深めるものだと知らなかったのでも驚いた。」

理工学部電気電子工学科 西山英輔先生「電波ってなに?～テレビの電波を捕まえよう～」



- 「電波を得るためのアンテナを思っていたより簡単に作ることができた。ちょうど波を学習していたので、そのしくみを理解することができた。」
- 「設計図のおかげで、材料を切ってアンテナを組み立てる作業ですみましたが、自分で計算して作って計測してうまくいくように何度も考え直すのはとても大変だろうと思います。また、全員が同じ材料、設計図を使用しましたが、計測した数値にばらつきがあったのが不思議でした。1回の計測で信頼できる数値が出る訳ではないのだと思いました。」

理工学部都市工学科 猪八重拓郎先生「電子地図を使った分析」



- 「佐賀市について人口などの情報を処理して、佐賀市の高齢化の現状などを視覚的にとらえることができたのすごかった。」
- 「今回の研修でデータを可視化する難しさと大切さを知った。問題解決にはまず可視化する能力が必要だと感じた。」

農学部応用生物科学科 草場基章先生「カビの観察」



- 「九州沖縄農業研究センターと玉ねぎのべと病の共同研究をされていることを聞き、農研機構に興味を持っていたので、将来そのような研究をしてみたいと改めて思いました。」
- 「何度かプレパラートを作り直さなければならず大変だったが、楽しく観察することができた。実験や観察は思い通りにいかないことも多くあるのだということを頭に入れて、来年度の課題研究に活かしたい。」

農学部生物環境科学科 北垣浩志先生「発酵食品の健康機能性」



- 「麴を用いた実験操作では「O待つ」という工程が多く、研究ではタイムスケジュールの管理が重要だと思いました。6、7年後に自分たちがどうすべきかを見せてもらうことができ、大学のイメージが明瞭になりました。」
- 「今回初めてクリーンベンチを使用しました。実験にはどれも精密さが必要で、少しの菌の混入も気を付けなければいけなかったため、これまで取り組んできた実験とは全く違うことがよく分かりました。」

農学部生命機能科学科 辻田忠志先生「自らの体質と遺伝子の相関性を実験で理解しよう」



- 「一つのことを調べるためには、多くの段階を踏む必要があり、計画的に実験をすることが重要だと思った。」
- 「初めて大学の研究室で実験をしましたが、優しく丁寧に教えていただき、楽しく実験をすることができました。実際に大学で実験をするというのは貴重な経験だと思うので、今後の進路選択の参考にさせていただきたいと思います。」